次に、私たちは鹿の解体加工現場にお邪魔し、一連の作業を見学させていただいた。
そこでは銃や罠で駆除した鹿の引き受けから解体、ペットフードへの加工も行っていた。
鹿を無駄なく利用するためには、覚える解体手順が多く、かつ体力も必要。
鹿の解体が行える人材は、現在二人しかいないとのことだった。

解体の迫力に圧倒される

駆除した鹿の皮を鞣(なめ)す株式会社メルセンと革製品を製造するペレサーレ（小諸市八幡町）では、
鹿解体後の鹿皮の加工工程や現在の鹿革製品の状況について伺った。
メルセンでは、鹿の皮から毛を抜き、鞣(なめ)し、成形し、着色していく一連の工程を担っている。
普段の生活で、革製品は身近に存在するが、動物の生の皮が革になっていく現場はかなり刺激的だった。
人間の都合で駆除した動物たちを決して無駄なく活用する責任と誇りを、社長さんのお話しぶりから強く感じた。

加工された鹿革を
見せてくださる中川さん
（メルセンにて）

ペレサーレ塩川さんによると、
鹿の皮は野生であるが故に傷が多い。
その傷を避けて製品を作る必要があるため、
一枚の革から作ることのできる量はとても少ない。
多く出てしまう端材の処理が課題とのことだった。

現在、ペンケースや
名刺入れが販売されている
（NAOMI にて）

市内で唯一鹿革製品を販売する NAOMI（相生町）では、現在の販売状況について伺った。
この製品は元々、ふるさと納税の返礼品として扱われてきたが、
小諸市民の方々にも使ってもらうことを目的とし、現在同店でも販売されている。
新聞などのメディアに掲載されてからは知名度も徐々に上がり、来店者が増えてきているそうだ。

鹿の被害とその現状を語ってくださった皆さんは、「年々鹿が増えているように感じる」と口を揃えていた。
害獣被害を身近に見聞きすることのあまりない東京からきた私たちにとって、
今回の訪問は、生き物と向き合うこと、共存することの難しさと課題点、そして大切さなど、
多くを学ばせていただく大変貴重な機会となった。

「農作物被害は鹿が生きるためであるが、人間もまた生きるために農作物を守らなければならない。
だからこそ、奪った鹿の命は決して無駄にしてはならない」

という皆さんの強い想い。そんな想いを少しでも込められるようにロゴマーク制作にあたった。
私たちの作品が鹿曲輪プロジェクトの一端を担うことで、この大切な取り組みが「繋がる」ことを切に願う。

最後に、私たちは小諸市滞在中に貴重な日々を過ごすことができた。
この間に携わっていただいた全ての皆さんに感謝の意を表し、
ルポルタージュを閉じたい。

次ページで、ロゴマーク投票をお知らせします。
皆さんの投票によりロゴマーク１点が決定します。
ぜひご参加ください。

令和２年度地域創生クリエイティブチャレンジ

Shika-Kuruwa Project × 日本写真芸術専門学校

鹿革製品のロゴデザイン事業

小諸市と「専門学校日本デザイナー学院」・「日本写真芸術専門学校」（東京都渋谷区）は、人材育成及び地域活性化を目的に包括連携協定を締結し、今年で４年目となりました。これまでは、桜まつりのポスターや音楽のまち・こもろのロゴデザインなどを行ってきました。令和２年度は、害獣として駆除された鹿の革を活用した製品ブランド名を考え、その製品に印字されるロゴマークを制作するため、日本写真専門学校の学生４名が約１ヵ月間、小諸市に滞在。現地取材や関係者への聞き取りを行いました。

その取り組みを、学生たちがルポルタージュにまとめました。以下でご紹介します。

ルポルタージュ reportage

東京の学生が小諸市で学んだこと ～野生動物との共存～

長野県は、ニホンジカによる農作物等の食害が深刻である。
それに対し、小諸市では「鹿曲輪(しかくるわ)プロジェクト」という活動が行われている。
これまで「ごみ」として処理されていた鹿肉を、ペットフードなどに加工することで「資源」として活かす取り組みである。
更に昨年からは、鹿の革を名刺入れやペンケースに加工して販売する取り組みも始まった。

東京渋谷にある日本写真芸術専門学校で地方創生を学ぶ私たちは、
今回、鹿革製品のロゴマーク制作のお手伝いをさせていただいた。
制作にあたり、鹿曲輪プロジェクトに関わる方々にお話を伺い、
東京では知ることの難しい害獣被害の実態について知ることができた。

猟友会の甘利さんに猟銃を構えていただいた

害獣被害の現状を知るため、
私たちは最初に、農家の方と猟友会の方にお話を伺った。
そこで特に印象に残ったのは、
「群れを狙う際はグループ全員で囲い込み、
絶対に逃げ道を作らない様に徹底し、
確実に仕留めなければならない」という言葉だ。

猟の成否が、農家への被害だけでなく
山の生態系にも重大な影響を与えてしまうのである。
信じられない気持ちでお話をお聞きした。

訪れた農家では、鹿に荒らされた現場を見ることができた。
その畑は、鹿対策として電気柵を張っていた。

その甲斐あって被害はかなり軽減されたとのことだが、
それでも鹿は知恵を絞って荒らしに来るという。
電気柵を張る前の被害は甚大で、「群れで畑に来た日には、
一晩で畑一つが全てダメになってしまう」と悔しそうに語った。

被害にあったキャベツをみながら

令和２年度地域創生クリエイティブチャレンジ

Shika-Kuruwa Project × 日本写真芸術専門学校

命を無駄にしない、次のステージへ

鹿革製品 KANOWA ロゴマーク投票

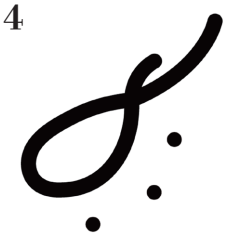
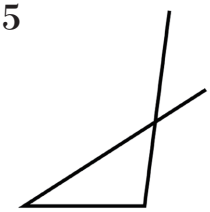
３月 26 日、鹿革やデザインに関わる方々、地元高校生など 10 名を選考委員として、ロゴマークの第１次選考会を実施し、下記５点を選考しました。

同時にブランド名の提案を受け、鹿の命の繋がり、鹿による繋がりを表した「鹿の輪」、「KANOWA（かのわ）」に決定しました。

本投票により選ばれたロゴマークが、小諸市の鹿革製品に印字されます。是非、投票をお願いいたします。

ロゴを作成した皆さんも WEB 参加。ロゴに込めた思いや背景をプレゼンしました。

１次選考では、全 12 作品から５点に絞られました。

1	2	3	4	5
				
鹿革の歴史と小諸の歴史に着目。鹿革が甲冑に使われていたことから「甲」の字を使用。右上の穴は鹿革に残る弾痕をイメージ。	個性を強調したデザイン。流線型で手裏剣のような形だが、よく見るとひらがなで「しか」の文字。中心の線は鹿を切るイメージで命を頂いているメッセージを込めた。	鹿の頭を表現したデザイン。角の部分に当たる３本の線は小諸の「小」を現した。シンプルだがしなやかな線の中にも力強さを残し、鹿の生命力を表現した。	鹿の頭を横から見たデザイン。丸みは鹿革の肌触りの良さ、命の繋がり、プロジェクトの意味を表現。右下の点は「小諸の空」「小諸の大地」「鹿の命」をイメージ。	鹿の頭と小諸の坂を極限までシンプルに表現。人と鹿との繋がり、共存する上でのせめぎあい、命を無駄にしない取組みであることを交差した部分に表現。

投票期間

4/2(金) ～ 4/20(火)

投票方法

○１人１回のみの投票。２回目以降は無効となります。

○右二次元コードから電子申請で投票、もしくは、下記必要事項を記入のうえ、投票箱への投函、郵送、FAX、メールのいずれかにより投票してください。

【必要事項】投票番号、氏名（フリガナ）、住所、電話番号

※必要事項が明記されていない場合は無効となります。
※個人情報は本事業の目的以外に使用しません

投票先（お問合せ先）

小諸市役所総務部企画課内「鹿革ロゴ投票」係
【投票場所】市役所１階、小諸図書館、文化センター、あぐりの湯
【郵送】〒 384-8501　小諸市相生町三丁目３番３号
【FAX】0267-23-8766
【メール】joho@city.komoro.nagano.jp

電子申請

公式 HP

記念品

投票いただいた方の中から抽選で５名様にロゴ入り鹿革製ペンケース、20 名様に鹿革製コースターをプレゼントします。

※当選者の発表は記念品の発送をもってかえさせていただきます。
※ペンケースは製造元からの直接の発送となります。
　投票時点でご同意いただいたものとします。